

Sun Server X3-2L (旧 Sun Fire X4270 M3)

OracleVM インストールガイド



Part No: E36113-01
2012年9月

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS. Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	5
最新のソフトウェアとファームウェアの入手	5
x86: このドキュメントについて	6
関連ドキュメント	6
フィードバック	6
サポートとアクセシビリティ	7
Oracle VM のインストールについて	9
関連情報	9
Oracle VM インストールのタスクマップ	9
サポートされる Oracle VM ソフトウェア	11
コンソール表示オプションの選択	11
ブートメディアオプションの選択	13
インストール先オプションの選択	15
Oracle VM のインストールオプション	17
Oracle System Assistant の使用	19
Oracle VM をインストールするための準備	23
BIOS の出荷時デフォルトの確認	23
RAID の構成	26
Oracle VM のインストール	27
準備作業	27
Oracle System Assistant を使用した、単一システムへの Oracle VM のインストール	28
メディアを使用した、単一システムへの Oracle VM のインストール	33
Oracle VM のインストール後のタスク	38
ネットワークインタフェースの構成	39
NIC コネクタ	39
サーバーファームウェアとソフトウェアの入手	41
ファームウェアとソフトウェアのアップデート	41
ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション	42

入手可能なソフトウェアリリースパッケージ	42
ファームウェアとソフトウェアへのアクセス	44
更新のインストール	48
索引	51

このドキュメントの使用方法

このインストールガイドでは、Oracle VMソフトウェアのインストール手順と、OracleのSun Server X3-2Lを構成および使用できる状態にするためのソフトウェアの初期構成に関する手順について説明します。

注 - Sun Server X3-2L は以前は Sun Fire X4270 M3 サーバーという名前でした。この以前の名前が、まだソフトウェアに表示されることがあります。新しい製品名は、システム機能の変更を示すものではありません。

このドキュメントは、技術者、システム管理者、承認サービスプロバイダ (ASP)、およびオペレーティングシステムのインストールについての経験を持つユーザーを対象としています。

このセクションでは、最新のソフトウェアとファームウェア、ドキュメントとフィードバック、およびサポートとアクセシビリティ情報の入手方法を説明します。

- 5 ページの「最新のソフトウェアとファームウェアの入手」
- 6 ページの「x86: このドキュメントについて」
- 6 ページの「関連ドキュメント」
- 6 ページの「フィードバック」
- 7 ページの「サポートとアクセシビリティ」

最新のソフトウェアとファームウェアの入手

各 Oracle x86 サーバー、サーバーモジュール (ブレード)、およびブレードシャーシ用のファームウェア、ドライバ、その他のハードウェア関連ソフトウェアは定期的に更新されます。

最新バージョンは次の3つのうちいずれかの方法で入手できます:

- Oracle System Assistant - Oracle x86 サーバーの出荷時にインストール済みの新規オプションです。必要なすべてのツールとドライバが含まれており、サーバーに組み込まれています。
- My Oracle Support: <http://support.oracle.com>

- 物理メディアの申請

詳細は、41 ページの「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」を参照してください。

x86: このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。情報は(オンラインヘルプと同様の)トピック単位の形式で提供されるので、章、付録、セクション番号はありません。

特定のトピック(ハードウェア設置やプロダクトノートなど)に関するすべての情報が含まれる PDF 版を生成するには、HTML ページの左上隅にある PDF ボタンをクリックします。

関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle ドキュメント	http://www.oracle.com/documentation
Sun Server X3-2L	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunServerX3-2L
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31
Oracle Hardware Management Pack 2.2	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp

フィードバック

次のサイトでこのドキュメントについてのフィードバックをお送りいただけます:

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

サポートとアクセシビリティ

説明	リンク
My Oracle Support を通じた電子的なサポートへのアクセス	http://support.oracle.com 聴覚障害の方へ: http://www.oracle.com/accessibility/support.html
アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについて	http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html

Oracle VM のインストールについて

このセクションでは、サーバーに Oracle VM をインストールする手順の概要を説明します。

説明	リンク
Oracle VM ソフトウェアのインストール手順について学びます。	9 ページの「Oracle VM インストールのタスクマップ」
サポートされている Oracle VM ソフトウェアのバージョンについて学びます。	11 ページの「サポートされる Oracle VM ソフトウェア」
コンソール表示オプションとそれらの設定方法について学習します。	11 ページの「コンソール表示オプションの選択」
ブートメディアオプションとそれらの設定方法について学習します。	13 ページの「ブートメディアオプションの選択」
インストール先オプションとそれらの設定方法について学習します。	15 ページの「インストール先オプションの選択」
Oracle VM のインストールオプションについて学びます。	17 ページの「Oracle VM のインストールオプション」
Oracle System Assistant について学習します。	19 ページの「Oracle System Assistant の概要」

関連情報

- [27 ページの「Oracle VM のインストール」](#)

Oracle VM インストールのタスクマップ

次の表に、Oracle VM ソフトウェアのインストール手順を示します。

手順	説明	リンク
1.	サーバーハードウェアを設置し、Oracle ILOM サービスプロセッサを構成します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『設置』、「サーバーのラックへの設置」 ■ 『設置』、「サーバーの配線」 ■ 『設置』、「Oracle ILOM への接続」
2.	静的 IP アドレスを使用して、Oracle VM Manager をインストール可能な 2 番目のシステムを設定します。このシステムには、次のいずれかのオペレーティングシステムがインストールされている必要があります: <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Linux 5.5、64 ビット以降のリリース ■ Red Hat Enterprise Linux Release 6、64 ビット以降のリリース 	『Oracle VM Server リリースノート』および『Oracle VM Manager リリースノート』: http://docs.oracle.com/cd/E20065_01/index.htm
3.	Oracle VM インストールメディアおよび Oracle VM ドキュメントを入手します。Oracle VM ドキュメントは、以降の手順 7 で説明されている作業で使用します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle VM インストールプログラムの ISO イメージは、次の Web サイトからダウンロードできます:http://www.oracle.com/virtualization ■ Oracle VM ドキュメントは、次の Web サイトからダウンロードできます: http://docs.oracle.com/cd/E20065_01/index.htm
4.	プロダクトノートを確認します。	『Sun Server X3-2L プロダクトノート』(http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunServerX3-2L)
5.	インストールの実行時に使用するコンソール、メディア、インストール先を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 11 ページの「コンソール表示オプションの選択」 ■ 13 ページの「ブートメディアオプションの選択」 ■ 15 ページの「インストール先オプションの選択」
6.	OS の新規インストール時の BIOS 設定を確認します。	23 ページの「BIOS の出荷時デフォルトの確認」
7.	Oracle VM Server、および必要に応じて Oracle VM Manager をインストールします。	Oracle VM Server および Oracle VM Manager のインストール手順については、33 ページの「メディアを使用した、単一システムへの Oracle VM のインストール」を参照してください。
8.	インストール後のタスクを適宜実行します。	38 ページの「Oracle VM のインストール後のタスク」

関連情報

- 23 ページの「Oracle VM をインストールするための準備」

サポートされる Oracle VM ソフトウェア

サーバーは、次の Oracle VM ソフトウェアをサポートします。

VMソフトウェア	版
Oracle VM	リリース 3.0 および 3.1

サーバーの注文時に、Oracle VM ソフトウェアがインストール済みのサーバーをリクエストした場合は、出荷時に Oracle VM 3.0 がインストールされています。Oracle Solaris OS がサーバーにインストール済みであるが、それを使用しない場合は、Oracle VM 3.0 または 3.1 を新規インストールできます。

さらに、サポートされているその他のオペレーティングシステムや仮想マシンをサーバーにインストールすることもできます。サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの完全なリストについては、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunServerX3-2L> にある『Sun Server X3-2L プロダクトノート』を参照してください。

関連情報

- 27 ページの「Oracle VM のインストール」

コンソール表示オプションの選択

このセクションでは、インストールを実行するためにコンソールを接続するオプションについて説明します。

- 11 ページの「コンソール表示オプション」
- 12 ページの「ローカルコンソールを設定する」
- 12 ページの「リモートコンソールを設定する」

コンソール表示オプション

ローカルコンソールをサーバーのサービスプロセッサ (SP) に直接接続することにより、Oracle VM ソフトウェアのインストールやサーバーの管理を実行できます。サーバーでは、2 種類のローカルコンソールをサポートしています:

- シリアル管理ポート (SER MGT) に接続された端末
端末を、ポートに直接接続することも、ポートに直接接続した端末エミュレータに接続することもできます。
- ビデオポート (VGA) と 2 つの背面 USB コネクタに直接接続した VGA モニター、USB キーボード、および USB マウス

サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから Oracle VM ソフトウェアのインストールやサーバーの管理を行うこともできます。2 種類のリモートコンソールがあります:

- Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続
- ネットワーク管理ポート (NET MGT) への SSH クライアント接続

▼ ローカルコンソールを設定する

- 1 ローカルコンソールを接続するには、次のいずれかを実行します:
 - 直接または端末エミュレータを介して、シリアル管理ポート (SER MGT) に端末を接続します。
 - VGA モニター、キーボード、およびマウスをビデオポート (VGA) および USB ポートに接続します。
- 2 シリアル管理ポート (SER MGT) 接続の場合のみ、ホストシリアルポートへの接続を確立するには:
 - a. Oracle ILOM のユーザー名およびパスワードを入力します。
 - b. ILOM プロンプトで、次のように入力します:

-> **start /HOST/console**

シリアル管理ポート出力は、ホストシリアルローカルコンソールに自動的にルーティングされます。

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>

▼ リモートコンソールを設定する

- 1 サーバー SP の IP アドレスを表示または設定します。
詳細は、『設置』、「サーバー SP の IP アドレスの確認」を参照してください。
- 2 Web ベースのクライアント接続を使用している場合は、これらの手順を実行します。それ以外の場合は次の手順に進みます。
 - a. Web ブラウザで、サーバー SP の IP アドレスを入力します。

- b. **Oracle ILOM Web** インタフェースにログインします。
 - c. **Oracle ILOM** リモートコンソールを起動して、ビデオ出力をサーバーから **Web** クライアントにリダイレクトします。
 - d. 「**Devices**」メニューでデバイスの切り替え(マウス、キーボードなど)を有効にします。
- 3 **SSH** クライアント接続を使用している場合は、次の手順を実行します。
- a. シリアルコンソールから、サーバー **SP** への **SSH** 接続を確立します (`ssh root@hostname`。ここでは、`hostname` は **DNS** 名または **SP IP** アドレス)。
 - b. **Oracle ILOM** にログインします。
 - c. 次を入力して、シリアル出力をサーバーから **SSH** クライアントにリダイレクトします:
-> `start /HOST/console`

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ: <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>

ブートメディアオプションの選択

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースをブートします。このセクションでは、サポートされるメディアソースおよび各ソースのセットアップ要件を示します。

- 13 ページの「ブートメディアオプションの要件」
- 14 ページの「ローカルブートメディアオプションを設定する」
- 14 ページの「リモートブートメディアオプションを設定する」

ブートメディアオプションの要件

このセクションでは、ローカルおよびリモートメディアを使用するための要件について説明します。

- 14 ページの「ローカルブートメディアの要件」
- 14 ページの「リモートブートメディアの要件」

ローカルブートメディアの要件

ローカルブートメディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。

サポートされる OS のローカルブートメディアソースは、CD/DVD-ROM インストールメディアだけです。

リモートブートメディアの要件

リモートメディアでは、ネットワークを介してインストールをブートする必要があります。ネットワークインストールは、リダイレクトされたブートストレージデバイスか、Pre-boot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク上にインストールをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。

サポートされている OS のリモートブートメディアソースには、次のものがあります。

- CD/DVD-ROM インストールメディア
- CD/DVD-ROM ISO インストールイメージ
- 自動インストールイメージ (PXE ブートが必要)

▼ ローカルブートメディアオプションを設定する

ローカルブートメディアを設定するには、次の手順を実行します。

- 使用しているサーバーに組み込み型ストレージデバイスがない場合は、サーバーの前面または背面パネルに適切なストレージデバイスを接続します。
ローカルデバイスをサーバーに接続する方法については、『設置』、「サーバーの配線」を参照してください。

▼ リモートブートメディアオプションを設定する

リモートの場所にあるメディアから OS をインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 リモートストレージデバイスからブートメディアをリダイレクトするには、これらの手順を実行します。それ以外の場合は次の手順に進みます。
 - a. ブートメディアを、次のようなストレージデバイスに挿入します:
 - **CD/DVD-ROM** の場合、内蔵または外付け CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。
 - **CD/DVD-ROM ISO** イメージの場合、ネットワーク共有された場所で ISO イメージがすぐに利用できることを確認します。

- b. サーバー **Oracle ILOM SP** への **Web** ベースのクライアント接続を確立し、**Oracle ILOM** リモートコンソールアプリケーションを起動します。
詳細は、11 ページの「**コンソール表示オプションの選択**」に示す Web ベースのクライアント接続に関するセットアップ要件を参照してください。
 - c. **Oracle ILOM** リモートコンソールアプリケーションの「**Devices**」メニューで、次のようなブートメディアの場所を指定します:
 - **CD/DVD-ROM** ブートメディアの場合は、「**CD-ROM**」を選択します。
 - **CD/DVD-ROM ISO** イメージブートメディアの場合は、「**CD-ROM Image**」を選択します。
- 2 **PXE** を使用してインストールを実行するには、次の手順を実行します。
- a. **PXE** ブートを使用して、インストールをエクスポートするようにネットワークサーバーを構成します。
 - b. **OS** インストールメディアを **PXE** ブートで利用できるようにします。
自動 OS インストールイメージを使用する場合は、Oracle Linux KickStart イメージなどの自動 OS インストールイメージを作成する必要があります。
インストールのセットアッププロセスを自動化する方法については、オペレーティングシステムベンダーのドキュメントを参照してください。
 - c. インストールメディアをブートするには、一時ブートデバイスとして **PXE** ブートインタフェースカードを選択します。
詳細は、このガイドで説明した **PXE** ベースのオペレーティングシステムインストール手順を参照してください。

インストール先オプションの選択

このセクションでは、インストール先を設定する方法について説明します。

- 15 ページの「インストール先のオプション」
- 16 ページの「ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する」
- 17 ページの「インストール先としてファイバチャネル Storage Area Network デバイスを設定する」

インストール先のオプション

内蔵 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ (Oracle System Assistant 用に予約されています) を除き、サーバーに取り付けたどのストレージドライブにもオペ

レーティングシステムをインストールできます。これらにはハードディスクドライブ (HDD) とソリッドステートドライブ (SSD) があります。

ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (HBA)、iSCSI ドライブ、またはその他の外部ストレージドライブが装備されたサーバーの場合、それらのドライブをインストールターゲットとして使用できます。ストレージドライブはサーバー内蔵に制限されません。

重要: 内蔵の組み込み型 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブは、ブート用または保存用のドライブとしては使用しないでください。

サーバーには、Oracle System Assistant、デバイスドライバ、および Oracle ILOM、BIOS、およびサポートされている IO デバイス用のファームウェアを格納する、組み込み型の Oracle System Assistant USB フラッシュドライブが付属しています。サポートされるすべてのオペレーティングシステムのインストール中に、この USB フラッシュドライブは、読み取り/書き込み可能な単一パーティションを持つ SCSI ディスクとして検出され、ドライブのリストに Oracle_SSM と表示されます。次の操作を実行するときに、このデバイスを上書きしないように注意してください:

- オペレーティングシステムのインストール
- ディスクまたはパーティションのフォーマット操作
- 一般的なディスク、パーティション、またはファイルシステムの保守

この USB フラッシュドライブが上書きされた場合でも、元の内容を復元できます。USB フラッシュドライブの内容を復元するには、Oracle System Assistant 復旧および ISO 更新イメージを取得し、このイメージを使用して復元処理を実行します。

Oracle System Assistant 復旧および ISO 更新イメージをダウンロードし、サーバーの Oracle System Assistant USB フラッシュドライブを復元する手順については、『管理』、「Oracle System Assistant の復元」を参照してください。

▼ ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する

- HDD または SSD が正しく取り付けられていて、電源が入っていることを確認します。

HDD または SSD の取り付けと電源の投入方法については、『サービス』の「ストレージドライブおよび背面ドライブ (CRU) の保守」を参照してください。

▼ インストール先としてファイバチャネル **Storage Area Network** デバイスを設定する

- 1 サーバーに **PCIe** ホストバスアダプタ (**HBA**) が正しく取り付けられていることを確認します。
PCIe HBA オプションの取り付けに関する詳細は、『サービス』、「PCIe カードの保守 (CRU)」を参照してください。
- 2 **Storage Area Network (SAN)** をインストールおよび構成して、サーバーホストでストレージデバイスが認識されるようにします。
手順については、ファイバチャネル HBA 付属のドキュメントを参照してください。

Oracle VM のインストールオプション

Oracle VM を単一のサーバーにインストールするか複数のサーバーにインストールするかを選択できます。このドキュメントでは、単一サーバーへの Oracle VM インストールについて説明します。次の表に、2つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用すると、1つの OS を複数のサーバーにインストールできます。詳細は、 http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/044497.html を参照してください。

オプション	説明
単一のサーバー	<p>次のいずれかの方法を使用して、Oracle VM を単一のサーバーにインストールします:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ローカル: Oracle VM のインストールをサーバーでローカルに実行します。このオプションは、物理的にラックにサーバーを設置し終えたばかりのときにお勧めします。 ■ リモート: Oracle VM のインストールをリモートの場所から実行します。Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、Oracle System Assistant にアクセスするか、Oracle VM の手動インストールを実行します。 <p>注 - 単一のサーバーに Oracle VM をインストールする場合は、Oracle System Assistant を使用するよう to してください。</p>

サーバー 1 台構成の OS インストール方法についての詳細は、次を参照してください:

- [18 ページの「サーバー 1 台構成のインストール方法」](#)
- [19 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)

サーバー 1 台構成のインストール方法

Oracle VM インストールメディアの取得方法を選択します。次の情報を使用して、最適なローカルまたはリモートの Oracle VM インストールを決定してください。

メディアの配布方法	その他の要件
ローカルでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します (推奨)。	モニター、USB キーボードとマウス、USB デバイス、および Oracle VM 配布メディア。詳細は、 19 ページの「補助付き Oracle VM インストール」 を参照してください。
リモートでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します (推奨)。	Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーション、リダイレクト先の CD/DVD ドライブまたは ISO イメージファイル、および Oracle VM 配布メディア。詳細は、 19 ページの「補助付き Oracle VM インストール」 を参照してください。
ローカルでの CD/DVD ドライブの使用 - サーバーに接続した物理 CD/DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB CD/DVD ドライブ、および Oracle VM 配布メディア。詳細は、 19 ページの「Oracle VM の手動インストール」 を参照してください。

メディアの配布方法	その他の要件
CD/DVD ドライブまたは CD/DVD ISO イメージを使用するリモート-Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを実行しているリモートシステム上でリダイレクト先の物理 CD/DVD ドライブを使用します。	ブラウザを備えたりリモートシステム、接続された物理 CD/DVD ドライブ、Oracle VM 配布メディア、およびサーバーの管理ポートへのネットワークアクセス。詳細は、 19 ページの「Oracle VM の手動インストール」 を参照してください。

補助付き Oracle VM インストール

この方法で、サーバーに Oracle VM をインストールすることをお勧めします。この方法では、Oracle System Assistant アプリケーションを使用します。Oracle VM インストールメディアをローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、または CD/DVD イメージに提供します。Oracle System Assistant によりインストール手順が案内され、必要に応じて必須のドライバが収集およびインストールされます。Oracle System Assistant は、使用しているサーバーでサポートされている必要があります、そのサーバーにインストールされている必要があります。

Oracle VM の手動インストール

この方法では、Oracle VM 配布メディアをローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、または CD/DVD イメージに提供します。必要なドライバをインストールする必要もあります。サーバー用のドライバは、サーバー内の Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ(ドライバへのアクセスを可能にするために取り付けが必要)に用意されており、My Oracle Support Web サイトから OS およびサーバー別のパッケージか ISO イメージファイルとして入手することもできます。Oracle VM をインストールするには、配布メディアのインストールウィザードを使用します。

Oracle System Assistant の使用

このセクションでは、Oracle System Assistant、実行できるタスク、および Oracle System Assistant を取得する方法について説明します。

- [19 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)
- [20 ページの「Oracle System Assistant のタスク」](#)
- [21 ページの「Oracle System Assistant の OS のインストールタスク」](#)
- [21 ページの「Oracle System Assistant の取得」](#)

Oracle System Assistant の概要

Oracle System Assistant は、Oracle x86 サーバー向けの単一サーバーシステム管理ツールです。これは、Oracle の Single System Management 製品、Oracle System Assistant

アプリケーション、および選り抜きの関連ソフトウェアを統合して、サーバーを迅速かつ簡単に起動し保守できるようにするツール群を提供します。Oracle System Assistant のコンポーネントは次のとおりです:

- Oracle System Assistant アプリケーション
- Oracle Hardware Management Pack
- 起動と保守のプロビジョニングタスク (OS のインストールタスクを含む) へのユーザーインタフェースアクセス
- Oracle System Assistant のコマンド行環境
- オペレーティングシステム用のドライバとツール。
- サーバー固有のファームウェア
- サーバー関連ドキュメント

Oracle System Assistant は、組み込みストレージデバイスとしてサーバー内部に存在し、出荷時にサーバー固有のバージョンのツールおよびドライバを使用して構成されており、オンライン更新を使用して保守が行われます。

関連情報

- [20 ページの「Oracle System Assistant のタスク」](#)
- [21 ページの「Oracle System Assistant の OS のインストールタスク」](#)
- [21 ページの「Oracle System Assistant の取得」](#)

Oracle System Assistant のタスク

Oracle System Assistant アプリケーションには、一般的で有用な単一サーバー管理プロビジョニングタスク一式が選択され、まとめられています。

次のタスクは、迅速で便利なサーバーの起動と継続的なサーバー管理を可能にします:

- システムの概要とシステムインベントリ情報
- すべてのコンポーネント (ツール、ドライバ、ファームウェアなど) のオンラインアップデートの取得
- システムファームウェア (BIOS および Oracle ILOM) とホストバスアダプタファームウェアの更新
- RAID、Oracle ILOM、および BIOS 構成
- 補助付き OS インストール
- ネットワーク構成
- 機能と組み込まれたメディア整合性チェックの無効化
- 多言語キーボード

- 実行環境を使用可能にする Oracle System Assistant シェル端末ウィンドウ
- Oracle Hardware Management Pack へのアクセス (Oracle System Assistant シェルを使用)
- Oracle System Assistant の復旧

関連情報

- 『管理』、「Oracle System Assistant を使用したサーバーの設定」

Oracle System Assistant の OS のインストールタスク

Oracle System Assistant アプリケーションの OS インストールタスクを実行すると、サポートされる OS をガイドに従ってインストールできます。OS インストールメディアを提供すると、Oracle System Assistant の手順に従ってインストールプロセスを実行できます。続いて、サーバーハードウェア構成に基づいて、適切なドライバをフェッチします。OS のインストールタスクは、サーバーでサポートされているすべてのオペレーティングシステムに使用できるわけではありません。

Oracle System Assistant を使用して、OS ドライバと他のファームウェアコンポーネント (BIOS、Oracle ILOM、HBA、および該当する場合はエキスパンダ) を更新する場合は、OS をインストールする前にその更新を実行するようにしてください。

Oracle System Assistant には、ローカルコンソール接続を使用してローカルからアクセスすることも、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用してリモートからアクセスすることもできます。

サーバーのインストールが終了した直後の場合、Oracle System Assistant をローカルで使用する (物理的にサーバーにいる間に) ことで、サーバーを迅速かつ効率的に起動できます。サーバーが動作すると、すべての機能を維持しながら、Oracle System Assistant にリモートで便利にアクセスできます。

関連情報

- [28 ページの「Oracle System Assistant を使用した、単一システムへの Oracle VM のインストール」](#)

Oracle System Assistant の取得

Oracle System Assistant がサーバーでサポートされているため、Oracle System Assistant USB フラッシュドライブがすでにサーバーに取り付けられている可能性があります。インストールされている場合、Oracle System Assistant の「Get Updates」タスクを

使用して、最新のソフトウェアリリースに更新できます。Oracle System Assistant がサーバーにインストールされているが、破損または上書きされている場合は、Oracle My Oracle Support Web サイトからリカバリ ISO イメージをダウンロードしてください。ダウンロード手順については、[41 ページの「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」](#)を参照してください。

関連情報

- 『管理』、「Oracle System Assistant を使用したサーバーの設定」

Oracle VM をインストールするための準備

このセクションでは、Oracle VM をインストールできるようにサーバーを準備する方法について説明します。

説明	リンク
サーバーの BIOS 設定を確認し、出荷時のデフォルトに設定します。	23 ページの「BIOS の出荷時デフォルトの確認」
サーバーで RAID を構成します。	26 ページの「RAID の構成」

▼ BIOS の出荷時デフォルトの確認

注-新しく設置されたサーバーにはじめてオペレーティングシステムをインストールする場合、BIOS はデフォルトの構成になっている可能性があるため、この手順を実行する必要はありません。

BIOS 設定ユーティリティーで、最適なデフォルトを設定し、必要に応じて BIOS 設定を表示および編集できます。BIOS 設定ユーティリティー (F2 キー) で変更した設定はすべて、次回に設定変更するまで常時使用されます。

F2 キーを使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集できるほか、BIOS の起動中に F8 キーを使用することで、一時ブートデバイスを指定できます。F8 キーを使用して一時ブートデバイスを設定した場合、この変更は現在のシステムブートのみで有効です。一時ブートデバイスでブートしたあとは、F2 キーで指定した常時ブートデバイスが有効になります。

始める前に 設定を開始する前に、次の要件を満たしていることを確認してください:

- サーバーにハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) または半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD) が搭載されている。
- HDD または SSD がサーバーに適切に設置されている。手順については、『サービス』の「ストレージドライブおよび背面ドライブ (CRU) の保守」を参照してください。

- サーバーへのコンソール接続が確立されている。詳細は、11 ページの「コンソール表示オプションの選択」を参照してください。
- 1 サーバーをリセットするか、電源を投入します。
例:
 - ローカルサーバーの場合、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して(約1秒)サーバーの電源を切断し、次にもう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を投入します。
 - ILOM Web インタフェースから、「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
 - サーバー SP の Oracle ILOM CLI で「reset /System」と入力します。
BIOS 画面が表示されます。



- 2 BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。
しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。
- 3 出荷時のデフォルト値に設定するために、次を実行します:
 - a. F9 を押すと、最適な出荷時のデフォルト設定が自動的に読み込まれます。
メッセージが表示され、「OK」を選択してこの操作を続けるか、「CANCEL」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。
 - b. メッセージで「OK」を強調表示して、Enter を押します。
BIOS 設定ユーティリティ画面が表示され、システム時間の欄の最初の値でカーソルが強調表示されます。

- 4 BIOS 設定ユーティリティーで次の手順を実行して、システム時間またはシステム日付に關係する値を編集します。
 - a. 変更する値を強調表示します。
上下の矢印キーを使用して、システムの時間と日付の選択を変更します。
 - b. 強調表示された欄の値を変更するには、次のキーを使用します:
 - プラス (+) を押すと、表示されている現在の値が増加します
 - マイナス (-) を使用すると、現在表示されている値が減少します
 - **Enter** を押すと、カーソルが次の値の欄に移動します
- 5 ブート設定にアクセスするには、「**Boot**」メニューを選択します。
「**Boot**」メニューが表示されます。
- 6 「**Boot Settings**」メニューで、下矢印キーを使用して「**Boot Device Priority**」を選択し、**Enter** を押します。
「**Boot Device Priority**」メニューが表示され、認識されているブートデバイスの優先順位が示されます。リストの先頭のデバイスが、ブートの優先度がもっとも高いデバイスです。
- 7 「**Boot Device Priority**」メニューで次の手順を実行して、リストの最初のブートデバイスエントリを編集します。
 - a. 上下矢印キーを使用してリストの先頭のデバイスを選択し、**Enter** を押します。
 - b. 「**Options**」メニューで、上下矢印キーを使用してデフォルトの常時ブートデバイスを選択し、**Enter** を押します。

注- 変更する各デバイス項目に対して手順 7a および 7b を繰り返して、リスト内のほかのデバイスのブート順を変更できます。

「**Boot Device Priority**」リストおよび「**Options**」メニューに表示されるデバイス文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列の形式です。

- 8 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティーを終了するには、**F10** キーを押します。
または、「**Exit**」メニューで「**Save and Reset**」を選択して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティーを終了することもできます。変更を保存して設定を終了することを確認するメッセージが表示されます。メッセージダイアログで「**OK**」を選択して、**Enter** キーを押します。

注-Oracle ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10 キーはローカル OS に
トラップされます。このため、リモートコンソールアプリケーションの上部にあ
る「Keyboard」ドロップダウンメニューから「F10」オプションを使用する必要があ
ります。

RAID の構成

RAID を使用する場合は、サーバー上で RAID を構成してから、Oracle VM をインス
トールする必要があります。RAID の構成手順については、『設置』の「RAID の構
成」を参照してください。

関連情報

- 『管理』、「RAID の構成」

Oracle VM のインストール

このセクションでは、Oracle VM をサーバーにインストールする手順を説明します。

説明	リンク
プリインストール要件。	27 ページの「準備作業」
Oracle System Assistant を使用した Oracle VM のインストール。	28 ページの「Oracle System Assistant を使用した、単一システムへの Oracle VM のインストール」
メディアを使用した単一サーバーへの Oracle VM ソフトウェアのインストール。	33 ページの「メディアを使用した、単一システムへの Oracle VM のインストール」
インストール後の作業。	38 ページの「Oracle VM のインストール後のタスク」

準備作業

次の要件が満たされていることを確認します:

- RAID (Redundant Array of Independent Disks) をサーバーのストレージドライブ上で構成する場合は、Oracle VM をインストールする前にそれを行う必要があります。RAID を構成する手順については、『設置』の「RAID の構成」を参照してください。

注 - サーバーに Sun Storage 6Gb/s SAS PCIe RAID 内蔵 HBA (SGX-SAS6-R-INT-Z) が搭載されている場合は、Oracle VM をインストールする前に RAID およびブート可能ボリュームを作成する必要があります。それ以外の場合、HBA がサーバーのストレージドライブを特定できなくなります。

- コンソール用ディスプレイオプションは、インストールの実行前に選択および設定するようにしてください。このオプションおよび設定方法の詳細については、[11 ページの「コンソール表示オプションの選択」](#)を参照してください。

- ブートメディアオプションは、インストールの実行前に選択および設定するようにしてください。このオプションおよび設定方法の詳細については、[13 ページ](#)の「[ブートメディアオプションの選択](#)」を参照してください。
- インストール先オプションは、インストールの実行前に選択および設定するようにしてください。このオプションおよび設定方法の詳細については、[15 ページ](#)の「[インストール先オプションの選択](#)」を参照してください。
- BIOS 設定がデフォルトに設定されていることを確認します。BIOS 設定を検証する方法、および必要な場合に BIOS を設定する方法については、[23 ページ](#)の「[BIOS の出荷時デフォルトの確認](#)」を参照してください。
- ローカルインストールの場合は、プロンプトが表示されたら、使用可能な Oracle VM インストールメディアを、接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
- リモートインストールの場合、Oracle ILOM リモートコンソールシステムの CD/DVD-ROM ドライブに Oracle VM インストールメディアを挿入します。Oracle ILOM リモートコンソールシステムの「Devices」メニューで「CD-ROM」を選択していることを確認します。
- Oracle VM イメージを使用している場合は、Oracle ILOM リモートコンソールシステムから ISO イメージにアクセス可能であることを確認します。Oracle ILOM リモートコンソールシステムの「Devices」メニューで「CD-ROM Image」を選択していることを確認します。
- 静的 IP アドレスを保持する 2 つのシステムがセットアップされていることを確認します。
 - 一方のシステムには、Oracle VM Server をインストールします。
 - もう一方のシステムは Oracle VM Manager 用で、Oracle Linux (Release 5.5、64 ビット以降のリリース) または Red Hat Enterprise Linux (Release 6、64 ビット以降のリリース) をインストールします
- このセクションに記載されている指示とあわせて使用するために、Oracle VM ドキュメントを入手します。Oracle VM のドキュメントは、http://docs.oracle.com/cd/E20065_01/index.htm から入手できます

Oracle System Assistant を使用した、単一システムへの Oracle VM のインストール

サーバーに Oracle VM をインストールする方法として、Oracle System Assistant アプリケーションの「Install OS」タスクが推奨されています。

- [29 ページ](#)の「[Oracle System Assistant を使用して Oracle VM をインストールする](#)」

▼ Oracle System Assistant を使用して Oracle VM をインストールする

始める前に サーバーに Oracle VM をインストールする方法として、Oracle System Assistant アプリケーションの「Install OS」タスクが推奨されています。

この手順を始める前に、次を実行します。

- 23 ページの「Oracle VM をインストールするための準備」の手順を実行します。
- ブートドライブ (Oracle VM のインストール先ストレージドライブ) を RAID 用に構成する場合は、Oracle VM をインストールする前にそれを実行する必要があります。サーバーで RAID を構成する方法については、『設置』、「RAID の構成」を参照してください。

1 インストールメディアがブート可能であることを確認します。

- ディストリビューション CD/DVD の場合。Oracle VM メディア (番号 1 が付いた CD、または単一の DVD) をローカルまたはリモートの CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
- ISO イメージを使用する場合。ISO イメージが使用可能であり、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションが最初の ISO イメージの場所を認識していることを確認します。
インストールメディアの設定方法に関する追加情報については、13 ページの「ブートメディアオプションの選択」を参照してください。

2 次のいずれかの方法で、Oracle System Assistant を起動します:

- Oracle ILOM Web インタフェースから、「Summary」>「Launch Oracle System Assistant」をクリックします。

ORACLE Integrated Lights Out Manager

User: root Role: auroc SP: H

Summary
View system summary information. You may also change power state and view system status and fault information.

General Information

Model	SUN FIRE X4170 M3
Serial Number	012345678
System Type	Rack-Mount
System Identifier	OSA Team Test Nashua
System Firmware Version	ILOM: 3.1.0.0 BIOS: 17010608
Primary Operating System	--
Host Primary MAC Address	--
ILOM Address	10.153.55.202
ILOM MAC Address	00:21:28:D5:C0:CE

Actions

Power State ON

Locator Indicator OFF

Oracle System Assistant Version: 1.0.0.0

System Firmware Update

Remote Console

Status

Overall Status: OK Total Problem Count: 0

Subsystem	Status	Details	Inventory
Processors	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Processor Architecture: x86 64-bit Processor Summary: 2 Intel Xeon Processor E5 Series	Processors (Installed / Maximum):
Memory	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Installed RAM Size: 16 GB	DIMMs (Installed / Maximum):
Power	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Permitted Power Consumption: 590 watts	PSUs (Installed / Maximum):

- サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

例:

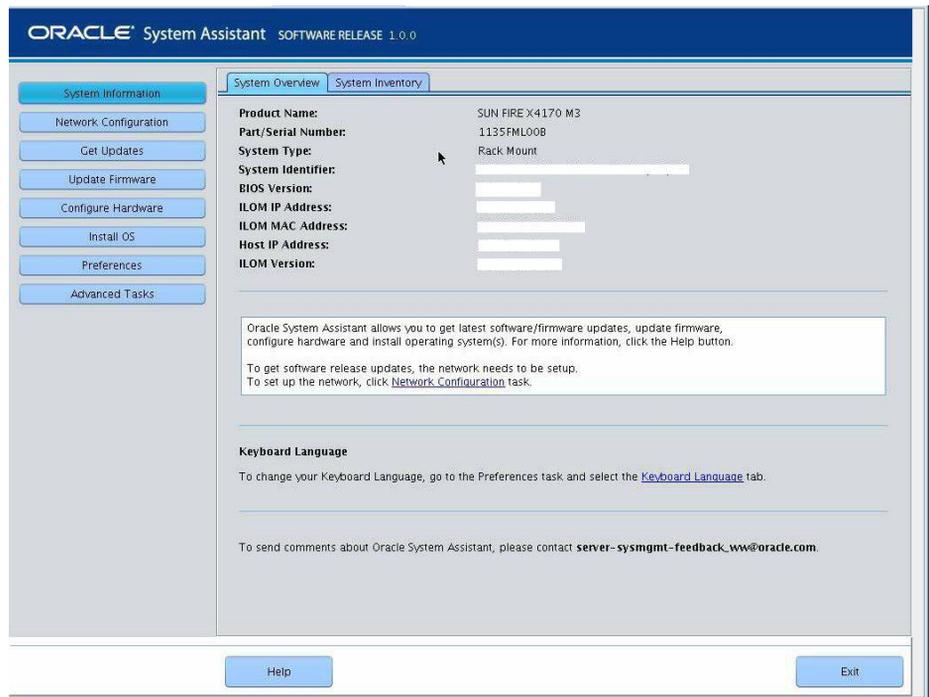
- ローカルサーバーで、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押してサーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **ILOM Web** インタフェースで、「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- **Oracle ILOM CLI** で `reset /System` と入力します
BIOS 画面が表示されます。



注- 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

- F9 キーを押します。

「Oracle System Assistant System Overview」画面が表示されます。



- 3 最新のソフトウェアリリースパッケージに更新するには、**Oracle System Assistant** の「**Get Updates**」ボタンをクリックします。
この操作により、OS のインストール開始前に、最新のソフトウェアリリースパッケージがインストールされます。

注 - Oracle System Assistant を更新するには、サーバーの Web アクセスが必要です。

- 4 サーバーのファームウェアを更新するには、「**Update Firmware**」ボタンをクリックします。
この操作により、OS のインストール開始前に、サーバーのファームウェアおよびドライバが確実に最新のものになります。
- 5 OS をインストールするには、「**Install OS**」ボタンをクリックします。
「Operating System Installation」画面が表示されます。
- 6 「**Supported OS**」ドロップダウンリストから OS を選択します。
- 7 画面に「**Select a BIOS**」モードが表示される場合は、**Oracle VM** インストール用に「**Legacy BIOS**」モードを選択します。

注 - ここでは、Oracle VM は「Legacy BIOS」モードのみをサポートするため、「UEFI」モードは選択しないでください。

- 8 「**Select your install media location**」セクションで、インストールメディアの場所を指定します。
これは Oracle VM 配布メディアの場所です。CD/DVD デバイスを選択できます。
- 9 「**Install OS**」画面の「**Select the boot disk**」部分で、「**Boot disk**」ドロップダウンリストからブートデバイスを選択します。
これは Oracle VM をインストールするデバイスです。



注意 - データが失われます。OS のインストールによって、ディスクの内容が消去されます。選択したディスク上のデータはすべて消去されます。

- 10 「**View Installation Options**」をクリックします。
「Installation Options」ダイアログが表示されます。
- 11 「**Installation Options**」ダイアログで、インストールしない項目を選択解除します。

注 - 「Installation Options」ダイアログでは、「Oracle VM」および「Drivers」オプションは必須であるため、選択解除できません。

- 12 「**Install**」画面下部の「**Install OS**」ボタンをクリックします。
- 13 ブートデバイスの選択を確認するため、「**Yes**」をクリックします。
ブートデバイスを変更するには、「**No**」をクリックして別のデバイスを選択します。

- 14 プロンプトに従ってインストールを完了します。
サーバーがブートします。

メディアを使用した、単一システムへの **Oracle VM** のインストール

このセクションでは、x86 (64 ビット) 用の Oracle VM 3.0 または 3.1 ソフトウェアをインストールする方法について説明します。

- [33 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM Server のインストール」](#)
- [38 ページの「Oracle VM のインストール後のタスク」](#)

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した **Oracle VM Server** のインストール

次の手順では、Oracle VM をインストールする手順を説明します。この手順では、次のいずれかのソースから Oracle VM インストールソフトウェアをブートすることを前提にしています。

- Oracle VM 3.0 または 3.1 CD または DVD メディアセット (内蔵または外付けの CD または DVD)
- Oracle VM 3.0 または 3.1 ISO ソフトウェアイメージ (ネットワークリポジトリ)

注 - Oracle VM ISO イメージは、リモートインストールまたはインストール CD または DVD の作成に使用できます。

- 1 **Oracle VM Server** インストールメディアがブート可能であることを確認します。
 - ディストリビューション CD/DVD の場合。ローカルまたはリモートの CD/DVD-ROM ドライブに **Oracle VM Server** メディアのブートディスクを挿入します。
 - ISO イメージの場合。ISO イメージが使用可能であること、および **Oracle ILOM** リモートコンソールアプリケーションでブートディスクイメージ (番号 1 の付いた CD または DVD) が選択されていることを確認します。

インストールメディアの設定方法に関する追加情報については、[13 ページ](#)の「ブートメディアオプションの選択」を参照してください。

2 サーバーの電源を入れ直します。

例:

- ローカルサーバーの場合、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、次にもう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を投入します。
- ILOM Web インタフェースから、「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- サーバー SP の Oracle ILOM CLI で「reset /System」と入力します。

BIOS 画面が表示されます。

注- 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3 BIOS 画面で、F8 キーを押して、Oracle VM Server のインストールで使用するブートデバイスを指定します。

「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。

4 「Please Select Boot Device」メニューで、最初のブートデバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択し、Enter キーを押します。

「Boot Device」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。

数秒後、Oracle VM Server インストールプログラムのスプラッシュ画面が表示されます。



- 5 指示に従って、Oracle VM Server および Oracle VM Agent をインストールします。
ここで、Oracle VM インストールプログラムは Oracle VM Server および Oracle VM Agent をインストールします。

「Partitioning Type」画面が表示されます。



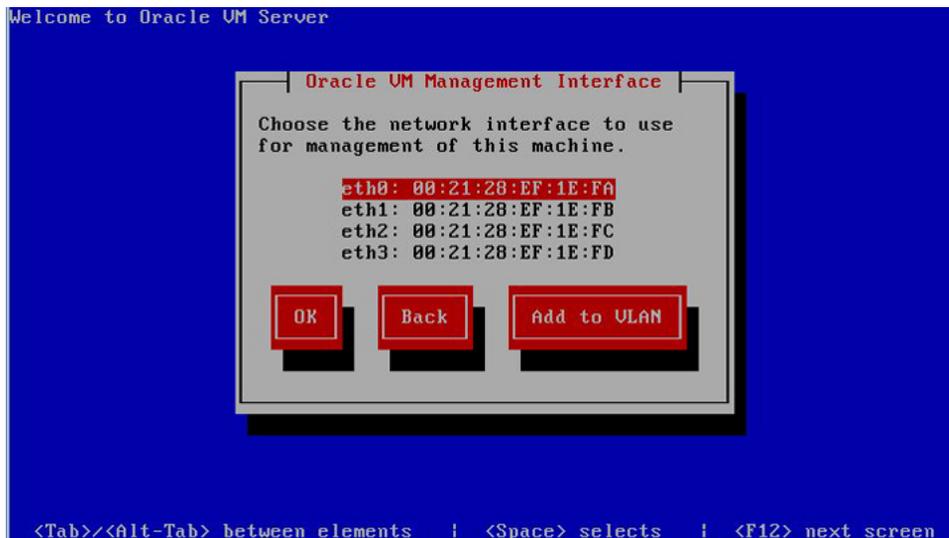
6 「Partitioning Type」画面で:

- a. このインストールで使用するドライブを選択します。
- b. 必要に応じ、**Oracle SSM** ドライブの選択を解除します。

注 - Oracle SSM ドライブとは、Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのことです。これをインストールドライブとして決して選択しないでください。Oracle SSM ドライブを表示するために、画面下部までスクロールすることが必要な場合があります。

- c. 「OK」をクリックして続行します。
「Oracle VM Management Interface」画面が表示されます。

- 7 「Oracle VM Management Interface」画面で、ネットワークインタフェースを選択して、「OK」をクリックします。



- 8 インストール中に設定したパスワードを使用して、Oracle VM Server に root ユーザーとしてログインします。

注 - Oracle VM のインストールには2つのパスワードが必要です。1つは VM Server の root アカウント用、もう1つは VM エージェント用のパスワードです。必要に応じて、http://docs.oracle.com/cd/E20065_01/index.htm で『Oracle VM サーバーストールガイド』を参照してください。

- 9 次のいずれかを実行します:
 - Oracle VM Server を管理するための Oracle VM Manager が構成されていない場合は、Oracle VM Manager をインストールする必要があります。
Oracle VM Manager のインストール手順については、『Oracle VM Manager インストールガイド』(http://docs.oracle.com/cd/E20065_01/index.htm)を参照してください。
 - Oracle VM Server を管理するための Oracle VM Manager が構成されている場合は、38 ページの「Oracle VM のインストール後のタスク」に進みます。

Oracle VM のインストール後のタスク

Oracle VM ソフトウェアのインストールが完了したら、次に示すインストール後のタスクを確認し、必要に応じてシステムに当てはまるタスクを実行してください。

- 38 ページの「Oracle VM ソフトウェアの更新」
- 38 ページの「Oracle VM リソースの管理」

Oracle VM ソフトウェアの更新

Oracle VM インストールメディアに含まれるソフトウェアは、最新のバージョンでない場合があります。必要に応じて、最新のアップデートを使用して Oracle VM ソフトウェアを更新します。ダウンロード手順については、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.oracle.com/virtualization>

Oracle VM リソースの管理

Oracle VM リソースを構成、アクセス、および管理する方法については、次の Web サイトで Oracle VM ドキュメントライブラリを参照してください。

http://docs.oracle.com/cd/E20065_01/index.htm

ネットワークインタフェースの構成

このセクションでは、次の情報について説明します:

- [39 ページの「NIC コネクタ」](#)

NIC コネクタ

ネットワークインタフェースカードのコネクタには、次のようなラベルが貼付されています。

表1 NIC コネクタのラベル

NIC コネクタのラベル	インタフェースタイプ
net0	第1 インタフェース (ixgbe 0)
net1	第2 インタフェース (ixgbe 1)
net2	第3 インタフェース (ixgbe 2)
net3	第4 インタフェース (ixgbe 3)

注 - シングルプロセッサシステムでは、ネットワークインタフェースコネクタ NET 2 および NET 3 はアクティブではないため、使用できません。

サーバーファームウェアとソフトウェアの入手

このセクションでは、サーバーのファームウェアとソフトウェアにアクセスするためのオプションについて説明します。

説明	リンク
サーバーファームウェアとソフトウェアのアップデートについて学びます。	41 ページの「ファームウェアとソフトウェアのアップデート」
ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプションについて学びます。	42 ページの「ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション」
使用可能なファームウェアとソフトウェアパッケージを確認します。	42 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」
Oracle System Assistant、My Oracle Support、または物理メディアのリクエストにより、ファームウェアおよびソフトウェアパッケージにアクセスします。	44 ページの「ファームウェアとソフトウェアへのアクセス」
ファームウェアとソフトウェアのアップデートをインストールします。	48 ページの「更新のインストール」

ファームウェアとソフトウェアのアップデート

サーバー用のハードウェアドライバやツールなどのファームウェアおよびソフトウェアは、定期的に更新されます。これらは、ソフトウェアリリースとして入手可能になります。ソフトウェアリリースは、サーバー用の使用可能なファームウェア、ハードウェアドライバ、ユーティリティをすべて含んだ一連のダウンロード(パッチ)です。これらすべては、まとめてテスト済みです。ダウンロードに含まれる ReadMe ドキュメントには、以前のソフトウェアリリースからの変更点および変更されていない点について説明されています。

サーバーのファームウェアとソフトウェアは、ソフトウェアリリースが入手可能になり次第、更新してください。ソフトウェアリリースにはしばしばバグの修正が含まれるため、更新により、サーバーソフトウェアと、最新のサーバーファームウェアおよびほかのコンポーネントのファームウェアとソフトウェアとの互換性が保証されます。

ダウンロードパッケージ内の ReadMe ファイルには、ダウンロードパッケージ内の更新されたファイル、および現在のリリースで修正されたバグに関する情報が含まれます。プロダクトノートには、サポートされるサーバーソフトウェアのバージョンに関する情報も含まれます。

ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション

次のオプションのいずれかを使用して、使用するサーバー用の最新ファームウェアおよびソフトウェアセットを入手します：

- **Oracle System Assistant** – Oracle System Assistant は、出荷時にインストール済みの x86 Oracle サーバー用の新しいオプションで、サーバーのファームウェアとソフトウェアを簡単にダウンロードおよびインストールできます。

Oracle System Assistant の使用方法の詳細は、『管理』の「Oracle System Assistant を使用したサーバーの設定」を参照してください。

- **My Oracle Support** – すべてのシステムファームおよびソフトウェアは、<http://support.oracle.com> の My Oracle Support から入手できます。

My Oracle Support Web サイトで入手可能なものの詳細については、[42 ページ](#)の「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」を参照してください。

My Oracle Support からソフトウェアリリースをダウンロードする手順については、[44 ページ](#)の「My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード」を参照してください。

- **物理メディアのリクエスト (PMR)** – My Oracle Support から入手可能なダウンロード (パッチ) を含む DVD をリクエストできます。

詳細は、[45 ページ](#)の「物理メディアのリクエスト」を参照してください。

入手可能なソフトウェアリリースパッケージ

My Oracle Support では、ダウンロードは製品ファミリ、製品、およびバージョン別にグループ分けされています。バージョンには1つ以上のダウンロード (パッチ) が含まれます。

サーバーとブレードの場合、パターンは似ています。製品はサーバーです。サーバーごとにリリースセットが含まれます。これらのリリースは、実際のソフトウェア製品リリースではなく、サーバーの更新リリースのことです。これらの更新はソフトウェアリリースと呼ばれ、まとめてテスト済みの複数のダウンロードで構成されます。各ダウンロードには、ファームウェア、ドライバ、またはユーティリティが含まれます。

次の表に示すように、My Oracle Support には、このサーバーファミリ向けの同じダウンロードタイプのセットが含まれます。これらも、物理メディアのリクエスト

(PMR)を行なって依頼できます。Oracle System Assistant を使用しても、同じファームウェアおよびソフトウェアをダウンロードできます。

パッケージ名	説明	このパッケージをダウンロードするタイミング
X3-2L (X4270 M3) SWversion – Firmware Pack	Oracle ILOM、BIOS、およびオプションカードファームウェアを含む、すべてのシステムファームウェア。	最新のファームウェアが必要なとき。
X3-2L (X4270 M3) SWversion – OS Pack	OS Pack は、サポートされているオペレーティングシステムのバージョンごとに入手できません。各 OS Pack には、その OS バージョン用のツール、ドライバ、およびユーティリティのパッケージすべてが含まれます。 ソフトウェアには、Oracle Hardware Management Pack および LSI MegaRAID ソフトウェアが含まれます。 Windows OS の場合、この OS Pack には Intel Network Teaming and Install Pack も含まれます。	OS 固有のドライバ、ツール、またはユーティリティを更新する必要があるとき。
X3-2L (X4270 M3) SWversion – All Packs	Firmware Pack、すべての OS Pack、およびすべてのドキュメントを含みます。 このパックには、Oracle VTS や Oracle System Assistant イメージは含まれません。	システムファームウェアと OS 固有のソフトウェアの組み合わせを更新する必要があるとき。
X3-2L (X4270 M3) SWversion – Diagnostics	Oracle VTS 診断イメージ。	Oracle VTS 診断イメージが必要なとき。
X3-2L (X4270 M3) SWversion – Oracle System Assistant	Oracle System Assistant 復旧および ISO アップデートイメージ。	Oracle System Assistant を手動で復旧または更新する必要があるとき。

各ダウンロードは zip ファイルで、ReadMe ファイル、およびファームウェアやソフトウェアファイルを含むサブディレクトリセットが格納されています。ReadMe ファイルには、前回のソフトウェアリリース以降に変更されたコンポーネントおよび修正されたバグの詳細が記載されています。

ファームウェアとソフトウェアへのアクセス

このセクションでは、ソフトウェアリリースファイルをダウンロードまたはリクエストする方法について説明します。

Oracle System Assistant を使用して、最新のソフトウェアリリースを簡単にダウンロードして使用できます。詳細は、『管理』の「Oracle System Assistant を使用したサーバーの設定」を参照してください。

更新されたファームウェアおよびソフトウェアを入手する方法は、ほかにも My Oracle Support を使用する方法と、物理メディアをリクエストする方法の2つあります。参照先:

- 44 ページの「My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード」
- 45 ページの「物理メディアのリクエスト」

▼ My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード

- 1 次の Web サイトにアクセスします:<http://support.oracle.com>
- 2 My Oracle Support にサインインします。
- 3 ページ上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。
「パッチと更新版」画面が表示されます。
- 4 「検索」画面で、「製品またはファミリー (高度な検索)」をクリックします。
画面に検索フィールドが表示されます。
- 5 「製品」フィールドで、ドロップダウンリストから製品を選択します。
あるいは、目的の製品が表示されるまで製品名のすべてまたは一部を入力します。たとえば、Sun Server X3-2L (旧 Sun Fire X4270 M3) です。
- 6 「リリース」フィールドで、ドロップダウンリストからソフトウェアリリースを選択します。
- 7 「検索」をクリックします。
ダウンロードできるパッチが一覧表示されます。

入手可能なダウンロードの説明については、42 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」を参照してください。

- 8 ダウンロードするパッチを選択するには、そのパッチをクリックします (**Shift** キーを使用すると、複数のパッチを選択できます)。アクションパネルがポップアップ表示されます。ポップアップパネルには、「計画に追加」および「ダウンロード」オプションを含め、いくつかのアクションオプションがあります。「計画に追加」オプションの詳細は、関連するドロップダウンボタンをクリックして、「なぜ計画を使用するのですか。」を選択してください。
- 9 パッチをダウンロードするには、ポップアップパネルの「ダウンロード」をクリックします。
「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスが表示されます。
- 10 「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスで、パッチの **zip** ファイルをクリックします。
パッチファイルがダウンロードされます。

物理メディアのリクエスト

Oracle Web サイトからダウンロードできない場合は、物理メディアのリクエスト (PMR) で最新のソフトウェアリリースを入手できます。

次の表に、物理メディアをリクエストするためのハイレベルタスク、および詳細情報の入手先のリンクを示します。

説明	リンク
リクエストに必要な情報を収集します。	45 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」
オンラインまたは Oracle サポートに電話して物理メディアをリクエストします。	46 ページの「物理メディアのリクエスト (オンライン)」 47 ページの「物理メディアのリクエスト (電話)」

物理メディアのリクエスト用の情報を収集する

物理メディアのリクエスト (PMR) を行うには、サーバーの保証またはサポート契約が必要です。

PMR を実行する前に、次の情報を収集します。

- 製品名、ソフトウェアリリースのバージョン、および必須パッチを入手します。最新のソフトウェアリリースおよびリクエストしているダウンロードパッケージ (パッチ) の名前を知っていると、リクエストを実行しやすくなります。

- *My Oracle Support* にアクセス可能な場合 - 44 ページの「[My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード](#)」に記載された手順に従って、最新のソフトウェアリリースを確認して、入手可能なダウンロード(パッチ)を表示します。パッチのリストを表示したあと、ダウンロード手順を続行しない場合は「パッチ検索結果」ページからほかのページに移動できます。
- *My Oracle Support* にアクセスできない場合 - 42 ページの「[入手可能なソフトウェアリリースパッケージ](#)」に記載された情報を参照して、目的のパッケージを確認し、最新のソフトウェアリリース向けのパッケージを要求します。
- 出荷情報を手元に用意します。リクエストの際に、連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および出荷先住所を入力する必要があります。

▼ 物理メディアのリクエスト(オンライン)

始める前に 要求を行なう前に、45 ページの「[物理メディアのリクエスト用の情報を収集する](#)」に記載の情報を収集してください。

- 1 次の Web サイトにアクセスします:<http://support.oracle.com>。
- 2 **My Oracle Support** にサインインします。
- 3 ページの右上の「問合せ先」リンクをクリックします。
- 4 「リクエストの説明」セクションに、次の情報を入力します。
 - a. 「リクエスト・カテゴリ」ドロップダウンメニューで、次を選択します。
ソフトウェアおよび OS メディアリクエスト
 - b. 「リクエスト・サマリー」フィールドに、次の内容を入力します: **Sun Server X3-2L の最新ソフトウェアリリースの PMR**。
- 5 「リクエスト詳細」セクションで、次の表に示されている質問に回答します。

質問	回答
メディアの入手をご希望ですか。	あり
どちらの製品ラインのメディアをご希望でしょうか。	Sun 製品
パッチをダウンロードするためのパスワードに関する問い合わせでしょうか。	なし
CD や DVD でパッチをご希望ですか。	あり

質問	回答
パッチをCDやDVDでご希望の場合、パッチの番号、OSとプラットフォームをお知らせください。	希望するソフトウェアリリースのダウンロードごとに、パッチ番号を入力してください。
ご希望の製品名とバージョンをお知らせください。	製品名: Sun Server X3-2L バージョン: 最新のソフトウェアリリース番号
希望されているメディアのOSとプラットフォームをお知らせください。	OS固有のダウンロードをリクエストする場合は、ここでOSを指定します。システムファームウェアのみをリクエストする場合は、「一般」と入力します。
メディアに言語は必要ですか。	なし

- 6 出荷先担当者の連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および出荷先住所の情報を入力します。
- 7 「次へ」をクリックします。
- 8 「ファイルのアップロード」の「関連ファイル」画面で「次へ」をクリックします。
情報を指定する必要はありません。
- 9 「関連ナレッジ」画面で、リクエストに該当するナレッジ記事を確認します。
- 10 「リクエストの送信」をクリックします。

▼ 物理メディアのリクエスト(電話)

始める前に 要求を行なう前に、45 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」に記載の情報を収集してください。

- 1 次の **Oracle Global Customer Support Contacts Directory** にある該当する番号を使用して、**Oracle** サポートに電話をかけます。
<http://www.oracle.com/us/support/contact-068555.html>
- 2 **Sun Server X3-2L** の物理メディアのリクエスト (PMR) を行いたい旨を **Oracle** サポートに伝えます。
 - My Oracle Support から特定のソフトウェアリリースおよびパッチ番号の情報にアクセスできる場合は、この情報をサポート担当者に伝えます。
 - ソフトウェアリリースの情報にアクセスできない場合は、**Sun Server X3-2L** の最新のソフトウェアリリースをリクエストします。

更新のインストール

次のセクションでは、ファームウェアとソフトウェアの更新のインストールに関する情報を提供します。

- [48 ページの「ファームウェアのインストール」](#)
- [48 ページの「ハードウェアドライバと OS ツールのインストール」](#)

ファームウェアのインストール

更新されたファームウェアは、次のいずれかの方法でインストールできます。

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** – Ops Center Enterprise Controller で最新のファームウェアを Oracle から自動的にダウンロードすることも、Enterprise Controller に手動でロードすることもできます。どちらの場合も、Ops Center でファームウェアを1つ以上のサーバー、ブレード、またはブレードシャーシにインストールできます。
詳細は、<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/044497.html> を参照してください。
- **Oracle System Assistant** – Oracle System Assistant は、最新のファームウェアを Oracle からダウンロードしてインストールできます。
詳細は、『管理』の「Oracle System Assistant を使用したサーバーの設定」を参照してください。
- **Oracle Hardware Management Pack** – Oracle Hardware Management Pack 内の fwupdate CLI ツールを使用して、システム内部のファームウェアを更新できます。
詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp> で Oracle Hardware Management Pack ドキュメントライブラリを参照してください。
- **Oracle ILOM** – Oracle ILOM および BIOS ファームウェアは、Oracle ILOM Web インタフェースまたはコマンド行インタフェースを使用して更新可能な唯一のファームウェアです。
詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31> の Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリを参照してください。

ハードウェアドライバと OS ツールのインストール

Oracle Hardware Management Pack などの、更新されたハードウェアドライバおよびオペレーティングシステム (OS) 関連のツールは、次のいずれかを使用してインストールできます。

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center**

詳細は、<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/044497.html> を参照してください。

- **Oracle System Assistant**

詳細は、『管理』の「Oracle System Assistant を使用したサーバーの設定」を参照してください。

- JumpStart、KickStart、サードパーティーのツールなどの、その他の配備メカニズム。

詳細は、オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

索引

B

BIOS

出荷時のデフォルト設定の確認, 23
設定の編集および表示手順, 24

H

Hardware Management Pack, 20

I

ISO イメージ

Oracle VM, 10, 33
Oracle VM Server, 33

O

Oracle System Assistant

Oracle VM のインストール, 29
アプリケーションの OS インストールタスク, 21
概要, 19
組み込みストレージデバイス, 20
タスクの概要, 20
入手, 21

Oracle VM

ISO イメージ, 10, 33
VM Server のインストール手順, 33
インストール後のソフトウェア更新, 38
インストール後のタスク, 38

Oracle VM (続き)

インストール後のリソース管理, 38
ネットワークインタフェースの構成, 39
ブートディスクイメージ, 33
メディアインストール, 29
メディアインストールの手順, 33

Oracle VM Server, ISO イメージ, 33

Oracle VM インストールの概要, 9-22

Oracle VM のインストール, 概要, 9-22

い

インストール後のタスク, Oracle VM, 38
インストール方法, ブートメディアのオプション, 13

と

トピックのガイドライン, 41-49

ね

ネットワークインタフェース構成, 39

ふ

ブートディスクイメージ, Oracle VM, 33
ブートメディアのインストール, 13

